

“ひがしなり”の名所と古跡

区内には神社寺院がたくさんあり、それぞれの由緒をも
ち地域住民に古くから親しまれてきました。ここでは江
戸時代以前創建のものについて簡単に紹介します。

区内の社寺

ひがしなりの社寺



1 比売許曾神社…東小橋3丁目8番

下照比売(姫)命ほか五柱をおまつりする延喜式内明神大社で、垂仁天皇2年愛久自山(現在の天王寺区小橋夷之町一帯の丘陵地)に下照比売命をおまつりしたのを起源とする大変古い神社です。『古事記』に、下照比売命(赤留比売)は新羅の王子の妻であったが、夫をきらって日本にきたとある渡来神とされる。推古天皇15年の正遷宮の際に天皇の行幸があり、貞観元年(859)に神階を従四位に進められた歴史的にも有名な神社です。天正年間(1580頃)の、石山合戦で兵火にあい現在地に移り、後に旧小橋村の氏神となる。今も多数の文化財を有しています。

やせなりの社寺



2 八阪神社…中道4丁目8番

素盞鳴尊・菊理姫命の二柱をおまつりする旧中道村の氏神で、延喜9年(909)に藤原道長がこの地に別荘を設け、牛頭天皇・白山権現をおまつりされたのに始まるとされています。仁安元年(1166)里人が社殿を再興し、天正12年(1584)現在地に移転したと伝えられています。もと牛頭天皇白山権現と称していましたが、明治5年(1872)八阪神社と改称しています。伊勢神宮参拝のおりには、旅の無事を祈り詣りたたとされています。

はちおうじの社寺



3 八王子神社…中本4丁目2番

八王子大神ほか四柱をおまつりする旧本庄村の氏神で、応神天皇3年の創建と伝えられ、孝徳天皇より高麗狗一対の獻納があったと伝えられています。明治の初め頃は“樞の宮”として知られ賑わっていましたが、今は枯死してなくなっています。明治5年(1872)に八王子稲荷大明神から百濟神社と改称し、明治42年(1909)に旧西今里村の氏神八剣神社を合併し、明治43年八王子神社と改称しています。

くまのだいの社寺



4 熊野大神宮…大今里4丁目16番

伊弉册尊ほか五柱をおまつりする旧大今里村の氏神で、用明天皇2年の創建と伝えられています。元龜元年(1570)石山本願寺と織田信長の合戦の際、兵火にあったがすぐに再建されています。元和(1615～24)以降、大坂城代就任と領内巡視の時は、必ず参詣するのを常とした社で、熊野権現と称し、明治5年に熊野大神宮と改称しています。明治44年には、旧東今里の氏神八剣神社を合併しています。



5 深江稻荷神社…深江南3丁目16番

手廻御魂神・下照比売(姫)命ほか三柱をおまつりする旧深江村の氏神で、垂仁天皇の時代、笠縫氏の祖が笠縫島の地に居を定め、下照姫命をおまつりしたのを始としています。慶長8年(1603)には豊臣秀頼が社殿を改造したと伝えられています。慶長19年(1614)兵火にて焼失、宝暦10年(1760)再興された。笠縫部との関係が深い。



6 妙法寺と契沖遺跡…大今里4丁目16番

妙法寺は聖徳太子の創建と伝えられ、寺域も広がったようであるが、往時の詳細は不明です。天正年間(1580頃)の石山合戦でほとんど焼失したが、享保年間(1716頃)の再建された本堂が昔を偲ばせています。この寺には、近世国学の祖といわれる契沖が、延宝7年(1679)から約10年間住職として滞在し、「万葉代匠記」など多くの著作を生み出しています。境内には契沖阿闍梨供養塔と契沖の母の墓があります。

けいしゅう



契沖 (1640～1701)

尼崎藩士の子で11歳のとき出家して妙法寺に入り、高野山で修行した後、40歳のとき妙法寺の住職となり約10年間在職し、この間に主著「万葉代匠記」20巻を著しました。はじめ下河辺長流が徳川光圀から命じられて筆を進めていたが、病気のため契沖が代わりました。“代匠記”と名付けたのは師の長流に代わって著述したところからきています。「万葉代匠記」が成って徳川光圀から褒賞金と三足の香炉が贈られています。元禄3年(1690)のとき、円珠庵(現在の天王寺区空清町)にこもって学問に専念し、その講義や学風は後の賀茂真淵や本居宣長らにひきつがれています。



けいしゅうのせき
契沖遺跡

おおいもんのせんぞくこうろう

葵紋三足香炉

妙法寺に伝えられる大型の香炉、仏前に置いて香を爇くための道具。

白い京焼系統の作で正面に三つ葉葵の紋をつけ、この部分に青い上葉がかけられています。



おおいもんのせんぞくこうろう
葵紋三足香炉